

## 来賓挨拶

文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室長  
浅井孝司

皆さま、おはようございます。文部科学省を代表して、一言ご挨拶を差し上げたいと思います。先ほどからお話にありましたように、10月に予定されていたものが延期されたということで、延期されたことによって、私は出席が可能になったということもございます。

本日は天気も非常によくりましたし、気持ちのいい朝を迎えることができましたけれども、国内の政治経済情勢というのは、これほど清々しいものにまだなっていないと思います。私も朝から、皆さま方に景気のいい話はしたいところではありますけれども、そういうことがなかなかできない情勢でございます。

今、ちょうど政権が替わりまして、概算要求に向けて仕分け作業など、いろいろと国の方で作業を行っておりますが、既に報道等でお分かりのように、非常に厳しいものがございます。

文部科学省としても、大学のいろいろな、特に我々のところは国際協力ということで、ご支援のための予算を獲得しなければいけないところではございます。我々も一所懸命、財務省あるいは官邸等に向けて、要求をさせていただいているところです。けれども、なかなかリアクションと申しますか、非常に反応は厳しいものがございます。

ただ、そういう中でも、途上国からの日本に対する農学をはじめとした国際協力の要請は、ますます高まっていることは事実でございます。こういう予算が厳しい中で、では日本の国際協力はどうあるべきかを考えたときに、一つは質ということを考えなければいけないと思います。なかなかお金が取れない、その中でも、一つ一つのプロジェクトも、金額的にはたいしたことがないプロジェクトになっていくかもしれません。ただその中で、より質を高めて、途上国に具体的な目に見えるような成果を、ぜひ挙げていく必要があると考えております。私どもは国際協力イニシアティブという事業を持っていますけれども、この事業予算についても、来年度は削減される方向になってきております。

その中において、先ほどご紹介がありましたように、国際協力を行うに当たっては、個々の大学だけではなくて、個人的な研究者から大学、あるいは個々の大学からさらに進めて、大学間のネットワークを築き上げて、より強固な体制で国際協力を進めていただきたいと思いますと考えております。

この農学の分野におきましては、名古屋大学が早くこういうネットワークを築き上げるという動きをしていただいて、そういった動きに対して、我々もぜひ支援したいということです。資金的にはたいしたことはございませんが、できる限りこのネットワークをうまく立ち上げて軌道に乗るように、これからも応援していきたいと考えております。

このオープンフォーラムは今年でちょうど10回目、このセンターも10年ということで、ぜひ、この10年間の地道な努力を、発展させる形に変えて、この農学のネットワークをうまく構築していただきたいと思います。先ほど、山内センター長から国際協力のセンターが七つというご紹介がございましたが、まだほかの分野は、こういうネットワークの立ち上げに至っておりません。ぜひこの農学分野から、こういうネットワークを築き上げて、実りある国際協力活動ができるように期待したいと思います。

我々も、先ほどから言っておりますように、予算的には非常に苦しいところがございますけれども、バックアップに努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。